

**令和8年度 秋田県
サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
更新研修**

1日目

秋田県障害者社会参加推進センター

演習ガイドンス

令和6年度よりフルカリキュラム化
された更新研修の全体像

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修の告示別表

更新研修		時間数
講義	1 障害福祉の動向に関する講義	1h
講義・演習	2 サービス提供の自己検証に関する演習	5h
	3 サービスの質の向上と人材育成のためのスーパービジョンに関する講義及び演習	7h
	合計	13h

※1 更新研修は、令和元年度から実施

※2 令和5年度までは1及び2のみの実施でも可とする

という扱いでしたが、令和6年度から13時間のフルカリキュラムに移行しました。

本研修で目指すこと



支援現場における支援の質の管理、支援を行う人材の育成を担う

キーパーソンの

サービス管理責任者、児童発達支援管理責任者として、

この2日間で、皆さんが『理解する』だけではなく

その理解を、『現場にどう広げるか・・・』

という視点で参加し、学ぶことを目指します

更新研修 1日目演習の内容

目的

- ①行政の動向や制度改正等の最新の情報(アップデート)を得る
- ②サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としてのこれまでの業務内容を振り返るとともに、知識・技術の更なる向上を図る
- ③サービス提供職員等へのスーパービジョンの方法を学ぶ

	研修項目	獲得目標
①	障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向	最新の動向を学習することにより利用者の制度的な環境の変化を理解する
②	サービス提供事業所としての自己検証 【事前課題1】	各自事業所の取組状況や地域との連携の実践状況を出し合うことにより、コンプライアンスを理解し、今後の事業所としての取組を明確して実践に活かす
	サビ児管としての自己検証 【事前課題2】	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自らの業務を振り返り、支援のあり方や地域とのかかわり方、今後自ら取組むべき課題を明確にして実践に活かす
	関係機関との連携 【事前課題3】	地域の相談支援専門員や関係機関、さらに(自立支援)協議会との連携状況を再確認して実践に活かす (自立支援)協議会の役割を理解する
③	事例検討	サービス提供職員へのスーパービジョンの具体的な技術を獲得し、実践に活かす

更新研修 1日目 演習全体の流れ

- アイスブレイク

自己紹介

- 演習1 事前課題1

「サービス提供事業所としての自己検証」

○ 休憩 ○

- 演習2 事前課題2

「サビ見管としての自己検証」

- 演習3 事前課題3

「関係機関との連携」

- 一日目の振り返り

演習Ⅰ

サービス提供事業所としての自己検証

【演習1】 目的と要点

「サービス提供事業所としての自己検証」

＜目的＞

サビ児管としてのスキルアップに加え、**サビ児管業務を行える環境（風土）を整える**ことも必要なことから、事前課題1を用いて組織環境の振り返り並びに**グループメンバーの取組みを参考にして自事業所に取り入れられることを明確にする。**

演習1の手順

サービス提供事業所としての自己検証

①事前課題1の報告【報告時間1名4分+質問2分×7名=42分】

- ・報告(4分)→質疑(2分)を行う
- ・「良いと思う取組み」をメモする

②報告の「良いと思う取組み」を共有する

- ・メモしたものをKJ法で整理しまとめる

【20分】

③全体共有(発表)【3G×3分=9分】

- ◎組織体制の取組の良いところ
- ◎チームワークの取組の良いところ

理由なども参考にして、「良いな」と思ったことは箇条書きでメモをする。

演習1

事業所としての自己検証

〇〇Gr

組織体制

良い取り組み

組織としてのフォロー・バックアップ体制

良い取り組み

チームワーク

良い取り組み

チーム作りのために行っていること

良い取り組み

演習1の留意点

1. 事前課題の内容を整理をするにあたって、批判的なことは避け、**良い取組みと思われた内容について意見交換し、自身の事業所でも参考にして取り組んでみたいことを整理**する。
2. 報告時の「**良い取組み**」を見る視点として、①情報伝達や共有方法(日常の業務的コミュニケーション、会議等)、②サビ児管のフォローアップ体制(サビ児管が困ったときの相談できる体制)、③チームアプローチ(管理者や看護師、支援員など事業所内の連携において、サビ児管としてどのような工夫やアプローチをしているか)など。
3. 利用者支援にあたって、サビ児管として個人のスキルを高めていくことの他に、**支援を行う環境・仕組みを組織として整えることも必要**なことから、サビ児管と管理者とで課題を共有し、改善に向けて協議することも大切である。

1.報告 4分

事前課題1の全項目を4分で報告です。報告者は工夫して、持ち時間を活用してみてください。報告を聞いているグループメンバーの皆さんは、参考になった!取り入れたい!と思うことをメモしてください。

2.質問 2分

2分間で自事業所に取り入れる・持ち帰るための質問をしてください。質問の仕方にコツがあります。つつい質問の理由といった「うちの事業所では…」なども伝えたいとなりますが、ここではできるだけ、コンパクトに端的に聞いてみてください。「チームの風通しが良い」という報告には「風通しがよくなるために何か工夫してますか?」など。

3.グループディスカッション 20分

グループメンバーの報告を聴いて良いところを共有し、自事業所に持ち帰り、実践するためのアイデアなどを意見交換する。

演習2

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自己検証

演習2 目的と要点

<目的>

事前課題2を用いて、自己のサビ見管業務や支援のあり方を振り返るとともに、グループメンバーの意見やアイデアを参考にして、改善したい課題の整理や、質の向上、スキルアップに向けた今後の取組みを明確にする。

演習2の手順

サビ児管としての自己検証

①事前課題2の報告

【報告時間6分→質問2分＝8分×7名＝56分】

- ・「良いと思う取組み」を付箋にメモする
- ・報告者の学びたい事・知りたい事について、改善策やアイデアを付箋にメモする

②付箋を使いKJ法で整理し、良いと思う取組み、改善策やアイデアを共有する。

【30分】

③全体共有(発表)【3G×3分＝9分】

【演習2】 事前課題2を使用した報告と討議

演習2「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自己検証」について

＜事前課題2＞

1. 個別支援計画について

- (1) 個別支援計画の作成について
- (2) 日常的なアセスメントとモニタリング

2. 他の従業者に対する技術指導及び助言について

3. 虐待防止について

サビ児管としての自己検証

演習2のポイント

1. 事前課題の内容を整理をするにあたって、批判的なことは避け、良い取り組みと思われた内容について意見交換し、サビ児管として自己の業務を振り返りながら、業務の質の向上に向けて取り組んでみたいことを整理します。

2. 報告時の「良い取り組み」を見る視点として以下4点を確認してください。

● 本人の意思に基づく本人主体の個別支援計画になっているか、そのためのプロセスをどのように管理しているか。

● 目的に沿った会議を効果的に開催できているか。勤務形態が異なる環境において、会議の質を高めるためにどのような工夫がされているか。

また、本人参加のモニタリング会議等おこなっているか

● 人材の多様化に即した育成管理ができているか、組織的な人材育成プログラムはあるか、スーパービジョンを取り入れているか

● 権利擁護、虐待防止に向けた組織的な取り組みがあるか。不適切な支援が確認された場合、サビ児管として確認、修正、介入できる環境と取り組みがあるか。また、良い支援や取り組みに対してどのような評価をしているか

演習2

事業所としての自己検証

〇〇Gr

個別支援計画の作成

良い取り組み

よりよくするための
改善方法・アイデア

アセスメント・モニタリング

良い取り組み

よりよくするための
改善方法・アイデア

技術指導

良い取り組み

よりよくするための
改善方法・アイデア

虐待防止

良い取り組み

よりよくするための
改善方法・アイデア

演習2の進め方について(1人8分)

1. 報告【6分】

事前課題2の全項目を6分で報告です。報告者は時間を意識しつつ、伝えるべき内容を明確に報告してください。時間内に解りやすく相手に伝える技術はサビ見管にとって必要なスキルです。

報告を聞いているグループメンバーの皆さんは、参考になった!取り入れたい!と思うことと、困っている事へのアドバイスをメモしてください。

2. 質問・回答【2分】

2分間でメモを使って、自身を取り入れる・持ち帰るための質問をしてください。

3. ディスカッション【30分】

報告を聴いて、良いと思う取り組み、改善点、アイデア、どのようにすればより良くなるのかを意見交換してください。

演習3

サービス管理責任者・児童発達支援
権利責任者として、関係機関との連
携に関する自己検証

演習3 目的と要点

- 1、相談支援専門員との連携
- 2、地域連携について
- 3、自立支援協議会への参加について

<目的>

事前課題3を用いて、サビ児管として、地域資源や関係機関との関り方や連携実績を振り返るとともに、グループメンバーの意見やアイデアを参考にして、改善したい課題の整理や、協働の実現に向けた関係づくりのヒントを得て、地域づくりに向けた今後の取組みを明確にする。

演習3の手順

関係機関との連携

①事前課題3の報告

【報告時間4分→質問2分＝6分×7名＝42分】

- ・「良いと思う取組み」を付箋にメモする
- ・報告者の学びたい事・知りたい事について、改善策やアイデアを付箋にメモする

②付箋を使いKJ法で整理し、良いと思う取組み、改善策やアイデアを共有する。

【20分】

③全体共有(発表)【3G×3分＝9分】

演習3

関係機関との連携に関する自己検証

〇〇Gr

相談支援専門員との連携

良い取り組み

改善策・アドバイス

地域連携について

良い取り組み

改善策・アドバイス

自立支援協議会について

調べた内容・気づきや参加について

演習3の留意点

自立支援協議会の報告について

1. 自立支援協議会の報告については、調べてきた内容について報告する。また調べたが不明点など、学びたい事を報告する
2. 聞いているグループメンバーは、報告を聴き、学べたことや知った事、不明点への回答やアドバイスをメモする
3. グループディスカッション
報告を聴き、学べたことや不明点へのアドバイス、自身の今後の取り組み、参画方法などを話し合う

関係機関との連携に関する自己検証

演習3の留意点

1. 自立支援協議会は、障害者の地域生活を考える場であることから、事業所が協議会に参画する意味として

①利用者は地域の支えもあって生活していることから、事業所も地域と関わる視点をもつこと。

②対応が難しい利用者への支援に行き詰ったり悩んでいるときは、専門機関や地域の理解と協力が得られるよう、日ごろから繋がりをもつこと。

③災害時の地域連携に向けて繋がりをもつこと。

様々な状況と状態をイメージしながらグループで検討します。

2. サビ児管が主体的に相談支援専門員や関係機関と連携する場合、どのような場面でどのようなアプローチがあるのかを、グループで検討します。

演習3の進め方について(1人6分)

1. 報告【4分】

事前課題3の全項目を4分で報告してください。報告者は、持ち時間を工夫して活用してみてください。報告を聞いているグループメンバーの皆さんは、参考になった!取り入れたい!と思うことをメモしてください。

2. 質問・回答【2分】

2分間でメモを使って自身を取り入れる・持ち帰るための質問をしてください。

3. ディスカッション【20分】

報告を聴いて、良いと思う取り組み、改善点、アイデア、どのようにすればより良くなるのかを意見交換してください。

ワークシート1を使って一日の研修を振り返り、気づきや改善策、改善に向けて事業所で取り入れたい取り組みを具体的に記入する

ワークシート 1

1日目	自己検証による課題抽出 【改善したいと感じたポイント】	課題解決に向けた取り組み 【自事業所で取り入れたいと思った取り組み】
演習1 事業所としての 自己検証		
演習2 サビ児管としての 自己検証		
演習3 関係機関との連携 についての自己検証		

研修のまとめ

○強い組織とチームワーク

自分たちチームの強みを知っていますか

○個別支援計画の形骸化

「計画書をつくること」が目的になっていませんか

○言葉から始まる虐待防止

「かわい」と「支援」の違いを意識していますか

○限界をつくらない連携のあり方

当事者の限界を決めてしまっていないか